

第3次徳島市生活排水対策推進計画策定のための市民会議

第1回会議 議事要旨

令和3年12月24日（金）午前9時30分～11時30分

徳島市役所8階 庁議室

1 開会

<部長あいさつ>

皆さんおはようございます。生活排水対策推進計画策定のための市民会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。皆さま方には、ご多用中にもかかわらず、委員の就任をお引き受けいただきましてありがとうございます。この度の市民会議は、現行計画の計画期間満了に伴いまして、新たな計画の策定におきまして、様々な角度からご意見を頂戴し、計画づくりに反映させていくことを目的としております。生活排水対策推進計画は、水質汚濁防止法の指定に基づく生活排水対策重点地域におけます計画であり、徳島市は公共下水道処理区域を除く、市内の全域が計画の対象となっています。市内は多くの川が流れ、市民の暮らしの近くに水環境があるという都市の特徴があります。また、汚染の原因者も市民自身ということで、産業排水の規制がひかれ、処理技術が進んできた結果、現在、一般家庭からの生活排水が水質汚染の主な原因でございます。こうしたことから、水環境、水質汚染の問題は、市民の皆さんにとって最も身近な環境問題であるといえます。生活排水対策としましては、公共下水道、または合併処理浄化槽での処理を進めてございまして、その上で家庭でできる対策の実践をお願いしますということでございます。いずれも市民の皆さんのご協力を得て、取り組みをお願いする必要がございまして、いかにして市民の皆さんのご協力を得ているか、対策を進める上での中心的な型でございます。より効果的な施策を展開することによりまして、水質汚染防止の理解を深め、市民の皆様と一体となった取り組みを推進することで、良好な水環境を創造してまいりたいと考えています。皆様には限られた時間の中で大変恐縮ではございますけれども、どうか忌憚のないご意見をお聞かせいただきまして、実りの多い会となることをご期待申し上げ、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします

2 議事内容

<委員自己紹介>

出席委員より自己紹介（環境保全に関するこれまでの活動歴など）が行われた。その後、市（事務局）出席者を紹介。

事務局

それでは、次に進めさせていただきます。設置要綱をごらんください。この設置要綱第5条では、市民会議に会長及び副会長を置く。会長は委員の互選による。副会長は会長が指名するということになっておりますので、まず、会長について皆様方にお諮りしたいと思います。どなたか会長をお引受いただける方いらっしゃいますでしょうか。自薦でも他薦でも結構ですので御遠慮なくお願いたします。

<他委員からの推薦により、会長が選出された。>

会長挨拶	<会長より、選出に対する挨拶が行われた。>
副会長任命	<会長の推薦により、副会長が選出された。>
副会長挨拶	<副会長より、選出に対する挨拶が行われた。>
事務局	それでは、役員が決まりましたので、ここで設置要綱第6条によりまして、進行を議長の会長に交代いたします。よろしくお願いいたします。
会長	それでは、議事に従って進めていきたいと思えます。議題の第3次徳島市生活排水対策推進計画について、事務局のほうから説明をお願いします。
事務局	<資料に沿って第3次生活排水計画について説明>
委員	計画について事務局から説明がありましたが、わからなかったことや、こういった話を計画に加えたらどうか、といったご意見を伺いたいと思えます。
委員	2点ほど伺いたい。水切り袋の配布などの啓発活動について、PRや広報的なところってというのは、普段どのようにされているのかお伺いできればと思えます。もう1点は、普段さまざまな活動をされている生活排水浄化実践推進員114名の皆さんの年齢であったりとか所属であったりとか、どういう内訳で皆さん登録されているのか？アンケートの結果に反映されている、年齢の内訳だったりとか、そういったところをお伺いしたい。
事務局	1点目の水切り袋とかの活動のPRですが、今回の水切り袋を作成したときに、広報とくしまに内容をPRしております。内容は、水切り袋を作ったということと、皆さんそれぞれ団体に活動されている場合は、その団体の中でも配ってもらえるように広報をお願いした。この時は、一般の新聞にも内容を取り上げていただいて、千部ほど配ることができた。徳島市の場合は、ホームページや広報とくしまといったメディアになるが、これからはSNSなども活用しないといけないと感じている。推進員については、婦人会ですとか、地域の集まりなどの団体に所属している方にお声を掛けたりして推進員になっていただいていることが多いです。そういった地域で活動されている方ですけど、どちらかというと、年齢も比較的高齢な方が多いというイメージを持っています。所属や年齢構成については統計的な資料は作ってない。
委員	水切り袋は、使用するイメージができる方もいれば、これどういう風に使うんだろう、と思っている方も居ると思うので、文字やイラストだけでなく具体的な使用方法や取り組みなどがイメージできる動画を作ったら良いのではないかな。動きがあるような動画で説明するほうが効果的なのかな、と思いました。お金をかけずにできる部分でもあると思う。推進員については、年齢的にバラツキがあるほうが接点できて良いのではないかな、と思う。いろんな興味がある年齢の方々に声をかけていくのが良いと感じた。
委員	補助金の問題ですが、資料の14ページ、団地に住んでおり、250人槽を合併槽に変える場合に大きな負担になる、ということを知っている。団地に後から入ってくる人

達は、自分たちで合併槽を作って、町内会の浄化槽に入らないとなっている。最初55軒の建売住宅があったが、その当時の人たちが、だんだん高齢化されて子供のところに移ったり、亡くなったりして。町内会費を集めている人が、合併槽を使っている人は、後から入った人は半分以上に削減してるんです。そしたらだんだんと町内会費が少なくなっ、最初8000万いるから、あの積立ましようって言うんですけど、助成金はもってもらえないのか。個人が合併槽にしたいとすれば、補助金は限界なのか？徳島市に合併槽が少ない原因の1つではないのか？もうちょっと頑張ってくれば、する人もできてくるのではないかな。

事務局 7人槽の合併槽を設置する場合は大体100万円ぐらい必要になってくる。助成は、単独槽から合併槽に転換する時は40万円、単独槽の撤去費が9万円、宅内配管をする場合はさらに10万円出る。それなりの持ち出しはあるが、そういった形で6割7割ぐらいは市からの補助で満たすことができる、と考えている。

委員 汚れ具合からすると、単独槽だったら汚れが合併槽の8倍にもなっている。(費用負担が) 大きなネックになってるんじゃないかな。

事務局 単独槽を切り換えていただくのが、特に公共下水道の整備を縮小して行くという話もあるので、補助については充実して行く必要があるのではないかなとは思う。

委員 どの程度の方が単独から合併に変えているのか？

事務局 補助実績でしかわからないが、令和2年でだいたい50軒ぐらい。市内にはまだ3万4万基残っている。

委員 リフォームするとか、そういう時でないとも補助金をかなりあげても無理なのではないかな。

委員 汚染を少なくする方向にいきいたいと思います。電気はLEDに変えていくと、電気代が半分以上になってきたから。大きなネックだなと思います。

事務局 担当課には、そういったご意見をいただいている旨、話をさせていただく。

委員 私の家はかなり古くなっているのも単独浄化槽ですが、合併槽を考えても家が建っていて面積的に合併槽が入らない。大きくなるから。そういう家は多いのではないかな。植えている木や壁を取り除かないと、ということになってしまう。10ページの表を見ても田舎のほうなら40%、50%で、ここらなら面積的にも設置可能か。街の中なら場所が取れない場合がある。

事務局 おっしゃることはよくわかります。合併浄化槽に転換するにしても、金額的な制約、あるいは土地ですね。もう面積的な制約も色々あると思いますので。そういうのをクリアしたところが工事にいくことになると思う。そこに行政がどうはいつていかってというのは難しいところがあるが、リハウスのタイミングで、切り替えていくのが、今の流れにはなっているように思う。制約がある所に、じゃあどうして行くか？また、今後担当課にも今回のご意見とかお伝えさせてもらって、今後に進めさせていきたいなとは思う。

委員 合併浄化槽への転換は、徳島ならではの話となります。他の所は公共下水道が進んでいるから。すごい地域性の強い話にはなる。

委員 水切り袋を配ったりするのはいいと思うが、若い人と話をしたときに、おしゃれなもの無い？白黒だったらいいみたい。そういったところでも何かアイデアがあるか

もしれない、と思った。

事務局
委員

みなさんに取ってもらえるようなものを考えていきたいと思う。

水切り袋を配布して感想を寄せてもらっている状態なんですけど、150軒分ぐらい環境保全課から預かって、お配りして、いろいろな意見が出て環境保全課にも報告している。大きさは、もうちょっと上が3センチぐらい短くても良いのではないかと。これを、どこに置くかっていうので、あの三角コーナーを使っている家は、その三角コーナーの中にはおけば、ここにゴミを入れることができる。私はシンクの中で、三角コーナーは置かない。これを置いて、ちっちゃいゴミがある場合はここを通して、と思う。野菜は、新聞の上で広げて全部処理して、泥がついているものだけを洗い流している。漏らさないということも、エコ料理の1つなんです。生ごみは水分が大半ですから、野菜は皮を剥いてから洗いましょうっていうようなことをね、買った野菜を流しに置いて、そこでピーラーや包丁で皮を剥く。水が付いた状態で三角コーナーに入れる。それをしないで、紙の上で皮を剥いて玉ねぎも剥いて、流しに持っていくということが水分を切る大きな原因です。

委員

そこに行くまでの前後が必要ですよ。これになるまでにまずどうするか、とその後どうするか、が大切ですよ。

委員

私は雑布を置いておいて常にストックしておきます。それでカレーやシチューなどは拭き取って、それから流しに持っていったら、お魚食べても油の料理しても、拭きとるから水を使わなくても汚れがとれます。特にぬるま湯が出るようにしておけば、すっときれいにすることができる。私自身の意見としては、置くところに困る。シンクの中に置いてたら、あとで水を流すでしょう。だから底が濡れるはね。少なくとも3日ぐらいは使いたいんですよ。もったいないからね。2回以上使うとと漏らさない。濡らさないためには、流しの上のほうにおくしかないです。

委員

アイデアとしてはとても素晴らしいし、紙になったっていうのはいいと思います。

委員

出前に行ったら、ヤクルトの1本80CCですけど、11万の家庭が全部を1個ずつ絞ってくれたら、20年前の出前教室でデータをもらったんですけど、4500万円もの市の処理場の油代が減りますっていう風な試算ができてたから、そんなことも話してやっています。

委員

昔、環境は規制して罰を与えてというものだったんですけど、今はもうそういう時代ではなくなって。生活排水もまあ、なるべく合併浄化槽にしてくださいねっていうお願いしていくみたいな時代になっているんで。今言われた啓発っていうのがですね。もうどんどん啓発活動なんで。徳島はその辺が遅れているので。まだまだ工夫のやりがいがあると思う。創意工夫のアイデアをどんどん出してもらって。こういう計画のなかに盛り込んでいけるようにしたら、それが徳島に関係をしているという、そういうことに繋がると思う。気づいたところがあったら。どんどん言っていただいたら。今の話なんかは水分を切ったら、そのエネルギー削減になるし、燃やす時の二酸化炭素の排出の削減になる。全部つながってますからね。皆さんの生活の目線でお話しただけならなというふうに思います。

委員

質問ですが、生活排水対策の重点地域にお住まいの方というのは、自分が住んでい

る場所がそういう地域で、特に対策が求められてるんだよってということは認識されているのか、ということと、合併浄化槽の転換の件で、リフォームをするときの設置業者、建設業者への働きかけ、補助制度だったり、徳島はこういうことが求められている、っていうことを説明をしていただけるような働きかけというのは可能なのか、ということ。3つ目は学習会では、エコクッキングとか海洋プラごみ対策、おそらくコロナなんか落ち着くとクリーンアップなんか強化されると思うんですが、ほかの学習会で、生活排水の要素を一緒に組み入れて、取り組んでいくということが可能であれば、一言、言うだけでとか、料理だと講師の方が当たり前のようにそのように進めると、それを見て子供たちだったらそのまま学んだりすることも大きいと思うので、分野を超えたような学習会での連動というのをお願いしたいなと思いました。

事務局

重点地域の話なんですけども、重点地域で学習会をする時、この地域は、こういう地域で、こういう形で汚水が出やすい、川が汚れているのはこういう理由ですよってことは、学習会に参加していただいた方にはお伝えしているが、学集會に参加していただくのは、やっぱり一部の方になってるので、地域全体にこうした話を広げていく必要があるのかなと、認識していただく必要があるのかなと、今聞きながら思っている。

委員
事務局

プレッシャーをかけてもいけないですね。

合併処理浄化槽の件ですが、設置の補助は、窓口が別の課になり、詳しい状況は分からないが、業者さんも補助制度があるというのは、歴史もありますし、よくご存知だと思っただけなんですけども、これと水環境を結び付けてのPRだとか、売り込みというところまではいっていないと思うので、その辺は課題になるのかなというふうに感じている。それと学習会の方ですが、環境はいろんなことと連動しているので、例えば一つの取り組みをしても、例えばゴミだったり、CO2削減だったり、いろんな環境の要素に結びつく取り組みであると思うので、こうしたことは環境学習では必要になってくると思う。

委員

徳島市の30校の小学校の代表として参加させてもらっております。徳島市の水と緑ということで、社会科の学習の一環として、研究授業は2年に1回、ローテーションをまわして、学習の中で子どもたちの啓発になっていると思う。上八万小学校の校長でちょっと質問させていただきたいが、私の理解不足があるかもわかりませんが、本校区にしらさぎ台という大きな住宅地があります。それからセンチュリーヒルズがあるが、12、13ページの特定期環境保全公共下水道にしらさぎ台が入っているが、この場合、生活排水は処理されているということか。

事務局

しらさぎ台については、1000人とか3000人規模の汚水処理をすることができる設備があるため、全て汚水は処理されている。

委員

本校区の40%から50%は、その地域から通っていますので、担任に話をしてやってますよということ伝えていきたいなと思います。それからセンチュリーヒルズについては、合併処理浄化槽になっているのか。

事務局

センチュリーヒルズは開発が新しい団地になるため、合併処理浄化槽の割合が高いと思う。

委員

わかりました。大丈夫と言いながら、やっぱり気になりましたので、担任に話をし

たい。学校の学習は、非常に大きな啓発になると責任を感じている。人権の教育のなかで、学校の教を家庭でということがあるが、まさにそのような状況になればいいかなと思って。教育のほうは一生懸命、取り組んでいかなければ、と考えています。

委員

子供に何を教えるのかって、なかなか最近難しいんですけど。1つは、合併浄化槽の家庭が徳島は多いんですけど、あの検査があるんで検査しようというふうに親に言ってください。この検査が車検みたいなもん。だから車検なしで走ってる、動かしてる合併浄化槽が4割もあるっていうのは。だからうちもやってるよね、みたいに言ってもらえると。社会的に大きな問題なるべきだと思うんですけど。みんながやってないという状況なんです。啓発の問題は、どっかでそういう意見を聞く場はあるんですか？

委員

広報に出てたから、水切り袋を個人で市役所に来ていただいて、帰ったりする人がたくさんあって。最初は作った水切り袋も全部出てしまいました、と仰ってましたよ。だから、広報はよく見るようにしている。

委員

そう市民の声を聞くっていう、こういうのを作って、もっと可愛いとか？いや、すごい大事だと思うんですけど。どっかのニュースで見たら使ってみたくとか。使ってみたらよかったから紹介したいなという気持ちになるようなものを作ってもらえると。なんかこう我慢して使うとか、環境にいいからちょっと不便なものを使うっていうんじゃないくて、もっと美味しいとかに繋がる、みたいな取り組みを徳島はやっていけないと。施設が遅れてるんで、みんなの気持ち1つでやるしかないんじゃない。そういう意味で、もっとこうやっていきたいなと思わせるような、そういう仕組みを作って行かないと。

委員

SDGsでね。前のネット式から紙にしてすごくいいですね、という意見は聞く。いろんな人に使ってもらおうことやね。

委員

水切り袋に QRコードとかでアンケートを付けといて、使用後のアンケートを聞かせてくださいと。

委員

水切りネット。ビニールの小さな網目のネットなんかありますか。業者が作ってるんですよ。市が働きかけて、そういうのを流通させるっていうか、まあそういう業者を探して、いいことを進めるべき。だからそういう方法もいいですよ。広めるという意味では。テレビなんかみても、最近スプレーとかを風呂に吹きつけといて洗わなくていいですよとか。あれは汚れを落とすととか、いろんな面では優秀なのかもしれないけど、水を汚すっていう意味のことは一切言わないんですよ。どれぐらい汚しているのかはわからないんですけどね。便利になるほど、おそらく環境にも悪いと思うんですよ。浄化槽を作らずにそういう事を言ってもしょうがないという意見もあるかもわかりませんが。浄化槽が進まないとする、徳島県としてはそういうものに力を入れてですね。例えばゴミを出さない、上勝町のようにゴミを出さない運動っていうので、まあ環境に悪いものはなるべく使わずにですね。自然のものを使いましょうですね。

委員

既成品で紙の水切りもたくさんあるんですよ。調べたら。知らないだけだった。私もこれすごいなと思いますけど、割とありました。

事務局

既成品でも最近出始めています。で先ほどちょっと委員さんからお話いただきましたし

た、こういう意見をいただく機会ですが、毎年一回、現在の徳島市の政策として、生活排水浄化実践推進員さんを登録させてもらって勉強会みたいな形をしております。そこに推進員さんだけでなく、そのお友達もどうぞっていう形で実施した年もございます。一緒に集まって、みんなでお話して。あんなことをやりましょうよっていう意見交換会を年一回しております。ここ最近コロナの関係で去年はしてはいないんですけども。これの出席者がちょっと説明にもありましたが、推進員さんを中心にしておりますので、年齢の高い方が中心でやっています。色々お話し伺って、確かに若い方もご意見を、こういうところで集めることができたならあっているのは、お話を伺いながら思いました。そういうところで、ぜひ推進員さんとして。若い人をこう引っ張って来れたらな、というのは思っております。それからスプレーとか洗剤とか最近どんどん出ていますが、ただ、洗剤を使いすぎると水を汚すと言うことになります。私も出前の授業で、水のこととかも行ってお話させてもらってますが、洗剤をできるだけ少なくはできませんか？っていう問いかけをしたら、よく新聞で拭いておいたよ、と言う話が出たり、拭いた後にちょっとだけの洗剤で洗おうよっていうのを学校の中でお話させてもらって、ぜひ家持って帰ってねっていうお話をさせてもらったこともあります。まあ、そういう授業とか、まあできるだけいろんなところでできればいいかな、と思っている。

委員

もっと啓発に力を入れていただきたいんですけど、課としてのインセンティブがなかなかない。この環境計画の基本の3つの指標も、なかなか高すぎてコツコツしているかという気がしない。みんなで取り組んでいけるような指標を作ってもらったらいいと思う。いろんな意見をもらって、それを実行しましたよ、的なそういう指標があったら。100したものを形にしていくと、そういうものが指標になっている。それがKPIというか、チームになってやろうかなっていう感じなんですけど、今のところ、なかなかそういう強い動機付けにならんとか、という気がしましたけど。これからそういうふうにしていかんと。合併浄化槽もお金かかるんで。そんな劇的に上がることはない。皆さんこういうものをどんどん使っていくっていうマインドを作っていくしかない。

委員

やっぱり課題がなんなのかも。皆さんは分かっている方も多と思います。市民の方からしたら。そのために何ができるのかっていうのも分からない方がほとんどだと思うので、そういうのを丁寧にやっぱり具体的に示していく。広報はもちろん、ほかの手段を使ってお伝えしていくっていうのはやっぱり大事な。人口が圧倒的に県内では多いので徳島市として。みんなが意識も変わっていくことで、大きく変わるっていうところを、やっぱり最初に伝えてあげるっていうのは大事なと思います。

委員

なんか考えたいですね。この委員会の中で1つ形にしたいなという気がします。

委員

定期的に子供たち、保護者の方にこうするとこういいよ、生活がこう変わるよ、というところを具体的にきちんと伝える事を小規模で良いので、それを何度も繰り返すっていうことがすごく大事だなというふうに思いまして。そこに行けるために、例えばユーチューブとの連動だったり、今までのこともしつつ、今までやっていなかったような世代や、アプローチの仕方を考えて具体的に何か、できたらいいなって思ってます。素材としてはすぐにたくさん伝えたものはたくさんあると思うので、それをど

ういうふう伝えていくかっていうことをちょっと考えたらいいかかなと思う。

委員
事務局
委員
委員
事務局
委員
委員

この委員会は、あと何回するんですか。
あと一回ございます。
それまでに宿題として皆さんに考えてもらって。
推進員になろうと思ったなられるのですか？
なれます。ぜひ、よろしく願いいたします。
子ども推進員とかどうですか？
本当に子供はね、すごくよく聞くんです。資源ごみの分別を私たち出前でね。小学校行った時に、今日はこんなことをしたから、お家に帰ったらお父さん、お母さんにも言ってねって言ったら、お父さん、お母さんに、お会いしたら、もうゴミ捨てていたら、もうるさいうるさい、これは間違え、という状態なんですけど。子どもは純粹だから言われたことを守れる。大人は雑念から、めんどくさ、とかそういうふうになってきてると思います。だから生活排水も。おうちの中で、僕ができることはこういうことですので言うと、すごく聞くと思います。

委員
委員
委員

(水切り袋を)市内の小学校みんなに配る、とか。
ありがとうございます。
それにはもっと詳しい使い方というか、実際にこれを濡らしてしまうと、おっしゃってくださったので、これをちゃんと伝える。古布だったり、正しい使い方だったり。

委員
事務局
委員

水切り袋は小学校の副読本として全部配っているのですか？
これは授業の時に呼ばれたときに、こういうのありますよ、って形で配っている。
中身についてはどうのこうのっていうことはないと思うんですけど。今おっしゃったように、これを実践していく上で、やっぱり啓発っていうのはますます大事になってくると思うので、そういった方たちが勧めやすいように、いろんなアイディアを出していただいているので、それをぜひ何かの形にして。これ5年間ですかね？何年ぐらい？

事務局

環境基本計画の計画期間に合わせたいと思ってますので、2030年というふうに考えています。

委員

10年間といえば大事やね。10年あれば時代かわつとるからね。ここでしっかり何か仕組みかな。おすすめるようなものを作っておかないと。あの10年間、なんやったんや、なんかそういうものは提案したいなというふうには思います。皆さん、ぜひ何かこんなんやったらいいんじゃないかっていうことを、あの自分たちがやるという気持ちで言っただけいたらありがたいなというふう思う。じゃあ時間になりましたので、皆さんよろしいでしょうか？

事務局

そうしたら、皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

3 閉会